

# 麻布・六本木エリア

## 六本木中学校



特別支援学級でジャガイモ等の栽培に取り組み、1か月に1回を目安に畑作業を行っています。また、今年度からメダカの飼育を開始し、生き物に触れる機会を設けることで生徒の憩いの場となっています。

## 麻布幼稚園



夏休みからビオトープを設置し、メダカやタニシ、カエルの様子を観察しました。遊びの時間には幼児が集まり、自分で見つけた生き物を友達に教えるなど他学年と交流することにもつながりました。

## 麻布小学校



ザリガニ一掃計画を実施し、より多様な生物が観察できる環境を目指しました。池だけでなく、周りの樹木も大切にしている意識を持ち、異なる学年の児童同士が協力して整備しています。

## 筈小学校



児童がビオトープの整備を行い、カエルやカマキリ、トンボなど様々な生き物を発見することができました。発見できる生物の違いにより、季節の移り変わりを感じることができました。

## 南山小学校



児童が中心となり、新規でビオトープを整備し、校舎内で育てていたメダカや水草を投入しました。また、みなエコ委員会が「南山の森」にオナモミの苗を植え、毎日水やりを行い、実をつけるまで成長させました。

## 高陵中学校



屋上の広い緑地を活用して新規でビオトープを設置しました。自然科学部が中心となって、穴を掘った後に防水シートを敷き、水を貯めたスペースで金魚やメダカを飼育しています。

## 南山幼稚園



プラスチックケースを活用して植物等を投入し、新規でビオトープを作成しました。地域の方からいただいたメダカを入れた結果、メダカがボウフラを食べ、幼児が新たな発見をするきっかけになりました。

## 本村幼稚園



ガマやトクサをビオトープ内に設置した結果、トンボやヤゴの抜け殻を発見できました。作成中に使用した赤玉土には園児が親しみをもって取り組めるよう「赤玉ちゃん」と名付けられています。

## 東町小学校



季節ごとに生き物探しを実施し、季節によってどのような変化があるのかを学びました。既存のビオトープを活用しており、従来からいる生き物の保全に向けて清掃活動などを行いました。

## 本村小学校



全校アンケートによって「本村の森」と名づけられました。児童はトンボやカエル、ピワの実などの動物植物を見つけ、新聞づくりを行いました。それらを通して生き物の観察や季節の変化を楽しんでいます。

